

長野県植物誌改訂調査で確認された県新産種の紹介 II

藤田 淳一 *

はじめに

長野県植物誌改訂にかかる調査が 2018 年から本格的に開始された。本誌 52 号掲載「長野県植物誌改訂調査で確認された県新産種の紹介」(藤田 2019) より、一度歩けば新産に当たる状態が続く反面、課題も山積しつつある。長野県で標本記録がないものというだけであればすでに数十種のストックが存在する。しかし国内の文献だけで解決しないもの、地域によって同じ物をみながら見解がまるで違うものを含んでいるため、容易に発表すると混乱を招く可能性がある。本報告では、筆者が調査会を中心に確認された長野県新産種のうち、確証のあるもの、早めに問題提起をして、多くの人の目で実態を明らかすべきものを紹介する

新産種

以下に新産種を示す。また、表 1 ~ 4 に標本写真一覧を示す。表中の標本番号のうち、TCCN は筆者の個人番号、OAM は大町市立大町山岳博物館、MAK は首都大学東京牧野標本館、「豊科」は豊科郷土博物館である。現段階で公的な機関に寄贈していない標本は追って寄贈する。

◆アイフユノハナワラビ

Botrychium japonicum (Prantl) Underw. × *B. ternatum* (Thunb.) Sw. (ハナヤスリ科)

安曇野市三郷小倉のスギ林縁にて生育を確認した。オオハナワラビ *B. japonicum* (Prantl) Underw. とフユノハナワラビ *B. ternatum* (Thunb.) Sw. の推定雑種である。フユノハナワラビにしては、葉質が厚く、硬い上、羽片の先端が鋭頭になるほか、胞子葉、栄養葉の葉柄に短毛が宿存する。採集した個体は、頂羽片が欠損しており、他の個体を探したが他には生育していなかった。周辺には、片親のフユノハナワラビのみが生育していた。標高 900m を超える場所での確認であったが、周辺にナンゴクナライシダ *Arachniodes fargesii* (Christ) Seriz.、サイゴク

イノデ *Polystichum pseudomakinoi* Tagawa 等の暖地性のシダが点在していた。

◆ホウキヌカキビ

Dichantherium scoparium (Lam.) Gould (イネ科)

池田町大字会染の畑において生育を確認した。牧場などに生育する同属のニコゲヌカキビ *D. acuminatum* (Sw.) Gould et C.A. Clark subsp. *acuminatum* によく似ているが、全体に大きく、全草長毛に覆われるが、節の下の部分に腺があり、無毛となる点が異なる。確認時には、畑の畦に群生しており、最初の花序を出したばかりの状態であった。植物体の大きさが異なるが、図鑑等文献では、秋季に葉腋から多数の花序を出した状態のものが紹介されているため、これまでニコゲヌカキビと混同されてきた可能性がある。

◆ヨシススキ

Erianthus arundinaceus (Retz.) Jesw. (イネ科)

天龍村神原にて生育を確認した。ヨシススキは、西日本を中心に急増している高さ 2m に達し、花穂を出すと高さ 3m 以上になる大型の外来種である。県外において本種がススキ群落に入り、ススキを駆逐し本種のみの大群落になっていく様子は、恐怖さえ覚え、かく乱地に入る他の外来種など本種に比べれば愛嬌のような存在にみえてくる。確認時には、河川沿いの電力施設に隣接した造成斜面に群生し、根元に植生マットの残骸がみられたことから、本種を緑化材として利用、若しくは、混入していたものが他種を被覆し、優占したと考えられる。採集した個体は、高さ 3m を超えるため、標本は 3 部構成となった。周辺に拡大する前に管理者の理解を得て駆除するべく対応していく必要がある。

◆アキノエノコログサ×キンエノコロ

Setaria faberi R.A.W. Herrm. × *S. pumila* (Poir.) Roem. et Schult. (イネ科)

第 18 回日本植物分類学会において首都大学東京牧野標本館 (MAK) の公開時に閲覧した際、長野県産の変った *Setaria* の存在に気がついた。外観は、小穂の第 2 苞穎が短く、護穎背面にシワが

* 藤田 淳一 〒390-0313 長野県松本市岡田下岡田 243-2
サンプラス I アルブ 203 号

ない点においてアキノエノコログサ *Setaria faberi* R.A.W.Herrm. にあたる。ただ、花穂が短めで、小穂基部の刺針がアキノエノコログサであれば 1 ~ 2 本程度のはずが、4 ~ 5 本と多く、刺針に褐色の色素沈着があるというキンエノコロ *S. pumila* (Poir.) Roem. et Schult. の特徴もあわせ持っている。このことから、アキノエノコログサとキンエノコロの雑種と推定された。

◆ヤマツクシハギ

Lespedeza x bicolor S.Akiyama (マメ科)

池田町大字会染の林道沿いにて生育を確認した。ツクシハギ *Lespedeza homoloba* Nakai によく似て萼裂片が短いものが多いが、萼裂片が長い花も存在し、花卉の色は典型的なツクシハギのようにクリーム色と紫色のツートンカラーにはならない。また、小葉の先端がややくぼむ点において、ツクシハギの特徴を有しながら、ところどころ小葉先端が尖り、主脈の周辺に毛が少し宿存するなどヤマハギ *Lespedeza bicolor* Turcz. の特徴が垣間見える。これらの特徴からツクシハギとヤマハギが交雑したものと考えられた。確認個体は結実せず、開花後すべての花が脱落していた。

◆カライタドリ×イタドリ

Fallopia forbesii (Hance) Yonek. et H.Ohashi × *F. japonica* (Houtt.) Ronse Decr. (タデ科)

安曇野市三郷小倉の林道沿いにて生育を確認した。本誌第 52 号において既報の外来種カライタドリ *Fallopia forbesii* (Hance) Yonek. et H.Ohashi の特徴であるイタドリ *F. japonica* (Houtt.) Ronse Decr. に比べて葉質が厚く、丸みを帯びる一方で、花柄の基部寄りに 1/5 くらいのところに関節があるもの（カライタドリの特徴）、基部より 1/3 くらいのところに関節があるもの（イタドリの特徴）が混在し、安定しないことから、カライタドリとイタドリの雑種と考えられた。葉の表裏の脈上に硬い毛がでていることから、片親はイタドリの変種ケイタドリ var. *uzenensis* (Honda) Yonek. et H.Ohashi と考えられる。標本を採集した個体はメス個体であるが、ほとんどの花が結実せずに脱落していた。ただし、周辺には、形態的特徴が同じでもほとんどの果実が結実している個体もみられた。また、県内において、同様の雑種で片親が狭義イタドリ var. *japonica* と考えられる葉が無毛のものもみられ(伊那市高遠町産: TCCN19-727)、県内各地で交雑が起きている可能

性がある。

◆イトツメクサ

Sagina apetala Ard. (ナデシコ科)

松本市野溝木工の道路沿いにて生育を確認した。*Sagina* といえば、ツメクサ *Sagina japonica* (Sw.) Ohwi、アライトツメクサ *Sagina procumbens* L. がコンクリートやレンガの目地で普通にみられ、街なかではアライトツメクサの方が多いこともある。県中部での確認であったが、イトツメクサは、東海地方で近年急増しているため、県南部ではすでに多く生育している可能性がある。イトツメクサの花はアライトツメクサと同様に 4 数性とされ、5 数性が混在することもあるが、採集した個体の花を検鏡すると 5 数性の方が多い。現段階では、種子の表面構造や花柄の腺毛等の特徴からイトツメクサにしか該当しないため、問題提起を兼ねてイトツメクサとしておく。このイトツメクサについては、今後、県内外の情報や海外の文献を精査し、報告する。

◆シラタマソウ

Silene vulgaris (Moench) Garcke (ナデシコ科)

木曽町開田高原西野の人家に近い林縁部で生育を確認した。県内では、同属のムシトリマンテマ *S. antirrhina* L.、マツヨイセンノウ *S. latifolia* Poir. subsp. *alba* (Mill.) Greuter et Burdet と並んで上高地、霧ヶ峰等でまれにみられる。萼部分が風船のように丸く膨れ、表面の脈が網目模様になるのが特徴である。花壇等で栽培されることが多く、まれに逸出したものが細々と小さな群落を形成するが、次々に群落を形成している様子はないため、現段階は、進入初期と考えられる。

◆ベニバナサワギキョウ

Lobelia cardinalis L. (キキョウ科)

木祖村大字小木曽の植生法枠の縁から水が滲出し、小規模な湿地になっている場所で生育を確認した。同属の在来種サワギキョウ *L. sessilifolia* Lamb. の花色を深紅色にしたような特徴を有し、葉の鋸歯はサワギキョウよりも少し低い。橙色を帯びた深紅色の花弁に、濃い緑色の葉をつけていることから、形態的には似ても似つかないが、遠目にはエンビセンノウ *Lychnis wilfordii* (Regel) Maxim. が生育しているように見える。開花すれば容易に同定できるが、開花前でも自然度の低い場所に成立した湿地で葉の鋸歯が低いサワギキョウ似の植物をみつけたら、本

種である可能性がある。

◆テマリフジアザミ

Cirsium hideo-takahashii Kadota nom. nud. (キク科)

木祖村大字小木曽の林道沿いの崩壊斜面で生育を確認した。フジアザミ *Cirsium purpuratum* (Maxim.) Matsum. に酷似しているが、フジアザミは総苞片が長く尖り、斜上、若しくは、一部反転するのに対し、テマリフジアザミは、総苞片が短く尖り、全て反転する。また、フジアザミがフォッサマグナ周辺に分布するのに対し、テマリフジアザミは、白山とその周辺に分布し、東側は、岐阜県高山市荘川町付近まで普通にみられる。フジアザミとは別種という扱いをされているが、木祖村に近い乗鞍高原の個体群は総苞片が短く、半数くらいが反転している個体が多く、木祖村に近づくにつれて、生育個体の全ての総苞片が反転していることから、形態的に北アルプス南部においてフジアザミとテマリフジアザミが移行しているのかもしれない。

◆キクバヒヨドリ

Eupatorium makinoi T.Kawahara et Yahara var. *makinoi* (キク科)

天龍村神原の道路に面した林縁部にて生育を確認した。長野県内に生育するヒヨドリバナ *E. makinoi* T.Kawahara et Yahara は、皆オオヒヨドリバナ（ヒヨドリバナバイスウタイ）*E. makinoi* var. *oppositifolium* (Koidz.) T.Kawahara et Yahara と呼ばれる3倍体、4倍体のものとされてきた。キクバヒヨドリは、2倍体であり、オオヒヨドリバナに比べ、鋸歯が低く、葉裏が白みを帯び、頭花が小さく、冠毛が短いという特徴がある。従来図鑑では分布が近畿以西とされていたが、近年では、静岡県以西とされ、県内では少なくとも木曽谷南部、伊那谷南部に生育している。

おわりに

植物誌改訂に係る現地調査は2年目が終了した。

長野県のフロラリストの種数は増えているが、現地調査に加えて蓄積する標本の整理、過去の標本の見直し等、できるうちに同時進行で進め、削除すべき種や課題のある分類群を少しでもクリアしていく必要がある。県内のみをみても解決しないような問題は、積極的に他県や研究者に呼びかけ、植物誌編纂と同時に広い地域で情報共有し、少しでも解決に近づける必要がある。

謝辞

首都大学東京牧野標本館（MAK）の閲覧に際しては、植物系統分類学研究室の加藤英寿氏にご案内頂きました。大町市立大町山岳博物館（OAM）の標本登録にあたっては、千葉悟志氏、豊科郷土博物館の標本登録にあたっては、松田貴子氏にお世話になりました。ここに記して御礼申し上げます。

引用文献

- Shinobu Akiyama (2003) New hybrids in *Lespedeza* section *Macrolespedeza* (Leguminosae), National Science Museum 29(4) p.133 ~ 143
- 海老原淳 (2016) 日本産シダ植物標準図鑑 I, 学研
- 金井和子・田中徳久 (2018) ナデシコ科, 神奈川県植物誌調査会 (編), 神奈川県植物誌 2018, 神奈川県植物誌調査会
- 清水建美 編 (2003) 日本の帰化植物, 平凡社
- 大塚孝一・星山耕一・藤田淳一・尾関雅章・石田祐子 (2017) 長野県植物目録, 長野県植物目録編纂委員会
- 米倉浩司 (2016) キク科ヒヨドリバナ連, 大橋広好・門田裕一・邑田仁・米倉浩司・木原浩 (編), 改訂新版 日本の野生植物 5 pp365-369, 平凡社
- 米倉浩司・梶田忠 (2003-) 「BG Plants 和名ー学名インデックス」 (YList), <http://ylist.info> (2020年1月30日現在)

表 1 標本写真一覧 (() 内は採集地、標本番号及び採集日)

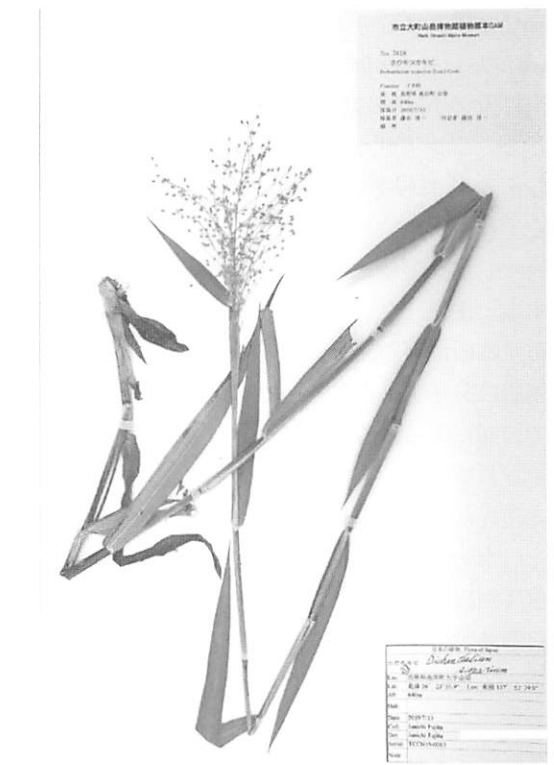
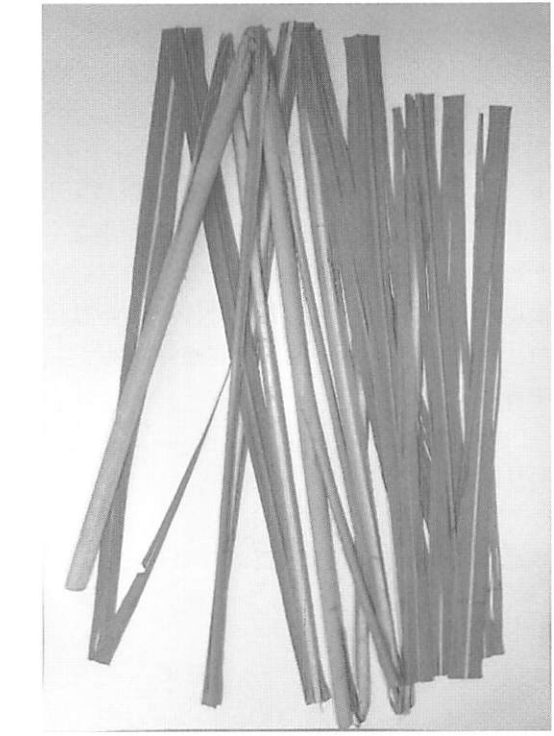
	
アイフユノハナワラビ (長野県安曇野市 三郷小倉 : 豊科 10866/TCCN19-1018 : 2019 年 10 月 6 日)	ホウキヌカキビ (長野県池田町大字会染 : OAM7818/ TCCN19-0501 : 2019 年 7 月 13 日)
	
ヨシススキ (長野県天龍村神原 : TCCN19-1063 (1/3) : 2019 年 10 月 26 日)	ヨシススキ (長野県天龍村神原 : TCCN19-1063 (2/3) : 2019 年 10 月 26 日)

表2 標本写真一覧 (() 内は採集地、標本番号及び採集日)

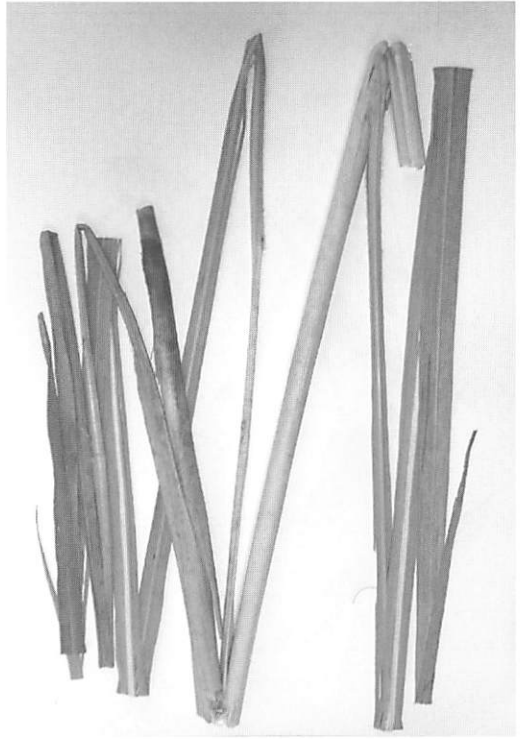
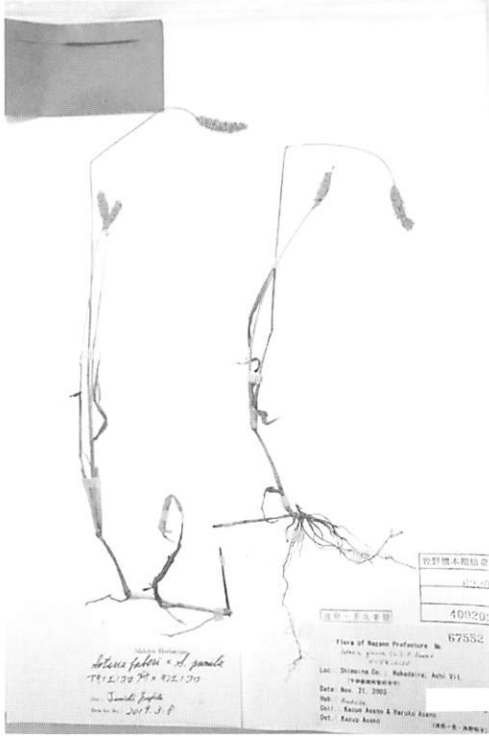
	
ヨシススキ (長野県天龍村神原： TCCN19-1063 (3/3)：2019年10月26日)	アキノエノコログサ×キンエノコロ (長野県 下伊那郡阿智村中平：MAK400209： 2003年11月21日：浅野一男・浅野明子採集)
	
ヤマツクシハギ (長野県池田町大字会染： OAM7819/TCCN19-0499：2019年7月13日)	カライタドリ×イタドリ (長野県安曇野市三郷 小倉：豊科 10809/TCCN19-0763： 2019年8月31日)

表3 標本写真一覧（（）内は採集地、標本番号及び採集日）

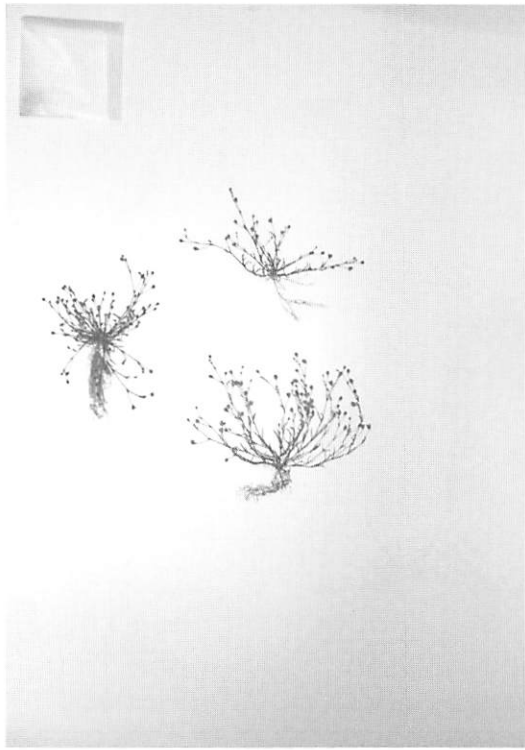
	
イトツメクサ（長野県松本市野溝木工一丁目：TCCN19-0076：2019年4月22日）	シラタマソウ（長野県木曽町開田高原西野：TCCN19-0385：2019年6月16日）
	
ベニバナサワギキョウ（長野県木祖村大字小木曽：TCCN19-0871：2019年9月14日）	デマリフジアザミ（長野県木祖村大字小木曽：TCCN19-0902：2019年9月14日）

表 4 標本写真一覧（（）内は採集地、標本番号及び採集日）

